

図書館報 みかづら

和歌山県立医科大学図書館三葛館

目次

Don't reshelve books and magazines !-----	1	絵はがき展示、終了しました -----	6
私と恩師と本と-----	3	展示図書はじめました！ -----	6
本という羅針盤-----	4	図書館の新しいサービス紹介 -----	7
これからも、よろしく。-----	4	平成20年度三葛館活動記録 -----	8
三葛館への思い-----	5	平成20年度利用統計 -----	8
知識は人をタスケル-----	5	編集後記 -----	8

Don't reshelve books and magazines !

保健看護学部 教授 柳川敏彦

“Don't reshelve books and magazines !” このフレーズは、私がテキサス大学医学部ガルベストーン校に留学中、図書館で目的とする本を探していたときに、書棚に貼っていた注意書きです。そう、「取り出した本や雑誌を元の棚に戻してはいけません」と書かれているのです。この注意書きを見て「えっ？ 読んだ本を戻してはダメとはどういうことなのか？」と、一瞬、非常に戸惑ったのを覚えています。というのは、机に座って少し本を読んだ後、元に戻そうと棚を見た時に、この注意書きが目に入ったからです。できるだけ平静を装って、また本を持って机に戻り、周りを見回すと、確かに机には誰もいないのに、机の上には何冊かの本が無造作に置かれているのです。そこで私は、本当は早く片付けて別の本を見たいのを我慢して、しばらく様子を観察していました。すると、一人の女性がカートを押して本を集め、本の背表紙に書かれている記号を見て書棚に戻しているのです。ようやく納得です。図書館で本を探す時、コンピューターで検索をして分類記号を見て探す方が多いと思いますが、目的とした場所に本がないと非常に困るために、職員の方が確実に本を戻すというわけです。日本では、おそらくほとんどの図書館で、「読んだ本は、必ず元に戻しましょう」という逆の注意が貼られていると思いますが、いかがでしょうか？

それからもうひとつ、図書館に入って驚いたことは、いたるところに少し大きめのソファが置かれているのです。昼間にも関わらず、いくつかのソファでは、学生が横になって眠っています。一緒にいた同僚にこの理由を聞いてみると、深夜遅くまで勉強していた学生や徹夜した学生が、図書館が開いてすぐに来てしばらく仮眠を取るためにソファが置かれているという返事でした。これも最初は、「アメリカの学生はなんと行儀の悪いことか」と思い、尋ねた訳ですが、なるほどと思い直した次第です。この時はこの答えに感心して、思わず図書館の机のところと同僚にいろいろと尋ねて話し込んでしまったので、ある一人の学生がトコトコとやってきて、「話があるのなら、別の場所ですしてほしい」と注意を受けました。そうです。眠っているよりも私語で他人に迷惑をかけることのほうが行儀がわるいという訳ですね。

この2つのエピソードで皆さんは何を感じましたか。私は、前者は「本がちゃんと図書館にあるのに片付け間違いが起こらないようにする」という意味、後者は「疲れている学生の学習しやすい環境を整える」という意味で、日本人にとっては議論のあるところではありますが、アメリカの非常に合理的な一面を見た思いをしました。

さて、皆さんは、私たちの和歌山県立医科大学図書館三葛館に何を期待しますか。三葛キャンパスにいる保健看護学部生、医学部生、保健看護学研究科大学院生、助産学専攻科学生、そして両学部教員、と利用する方々の状況や立場によってニーズは様々であると思います。現在、三葛館は、保健・看護関係の和雑誌が250種類以上、さらに洋雑誌が100種類以上あり、大学院生や教員にとって非常に大きな情報源になっていると考えます。そして看護学生にとって必要な、講義、演習、実習関係の比較的新しい図書が充実しており、さらに一般教養の図書を含めると、4万冊以上の蔵書がそろっています。三葛館の充実振りは、内部の方よりむしろ、他の病院の医師や看護師の方々から、「ここに来ると探していたものがそろそろ」という言葉をたくさん耳にします。そんな三葛館がますます発展していくように、どのような図書館にしていきたいか、図書館に自分の夢を託して考えてみるのも面白いかもしれませんね。

IT (Information Technology) 化の波を受けて、ちょっとした疑問を調べるのに、辞書ではなく、インターネットで調べるということが日常になっています。詳しく調べたい場合も本や雑誌ではなく、研究室や自宅から、電子ジャーナルの Abstract をまず見ていくというように、図書館に足を運ぶことが少なくなっている人もいます。しかし、図書館を覗いてみてください。図書館に足を運べば、目的とした本や雑誌以外に、目に入った本を手にとって、実は最初の目的とは違ったものを借りてくることもしばしばですね。当然ですが、図書館は、電子ジャーナルの使い方などを含め、実は IT 対応もしっかり進んでいます。文献検索も司書の方に聞くと、ほしい文献への到達率が上がると思います。従来型図書館の利用だけでなく、新しい図書館の使い方も発見できると思います。

今一度、あなたは三葛館に何を期待しますか？

私と恩師と本と

保健看護学部 准教授 岩原 昭彦

私には忘れられない恩師の言葉があります。私が学部生だった頃、とあるオリエンテーションの冒頭で、その先生はおっしゃいました。「君らは、躍起になるという経験をしたことがあるのか？今という時間をそのように無駄にしてもいいのか？」。今でこそ、本や論文を読んだり書いたりすることを生業の1つとしている私ですが、恥ずかしながらその当時は、ごく普通の文科系大学生にありがちな悦楽にふける生活を送っていました。恩師の一言は、そのような私を目覚めさせました。その日から、私は図書館の住人になり、本に囲まれる生活を始めました。その新しい生活の中で、心理学の面白さを発見し、さらに深く追求したいという気持ちが芽生え、大学院に進学しました。思い返してみれば、この出来事が私と活字との戦いの始まりであり、見えない何かに追われる日々の始まりでした。「躍起になる」という言葉の重みは今なお私に申し掛かっています。

私が本や論文をがむしゃらに読むようになったきっかけがもう1つあります。それは大学院の指導教官との日々の会話にありました。私の師匠は専門分野だけでなく、他の分野にも造詣が深く、訳が分からないこと（私が無知だったからですが）をよくおっしゃっておりました。師匠との会話では、「知りません」と言える空気はなく、ただ黙ってうなずきながら分ったふりをしなければなりません（というより、その当時の私はそう思い込んでいたのですが）。でも、それでは悔しいので、先生の研究室から出るや否や図書館へ直行し、先ほど聞いた言葉の意味を理解しようと“躍起”になったものです。そうこうしているうちに、意味不明な言葉は徐々に減ってゆき、心理学とは如何なるものかということがだんだんと見えてきたように思います。でも、未だに解読不能な先生のお言葉は数多くあり、日々その真意に迫るべく活字と戦っています（今となっては、楽しみなのですが）。

このお二人の先生がおられたからこそ今の私があるのだと思います（もちろん、他にも影響を受けた先生は多数おりますが）。先生方の重い言葉に追われる日々ではありますが、知を探求することの楽しさを教えていただいたことに感謝しています。そして今度は、私が皆さんにとってこのお二人のような存在になる番であり、また、そうなりたいと思っています。共に、歩み成長していけることを期待しています。



本という羅針盤

保健看護学部 助教 岩根直美

私は娯楽として本を読むことが少ない。だから日頃、読書を楽しんでいる姿をみると少し「羨ましい」と思う。何故なら、私にとって“本”はお悩み解決の1つの方法であるから。

親と離れて暮らすまでは、人と会話をしながら自分の気持ちを整理していたように思う。しかし、年を重ねる毎に、日常で誰かに相談することが少なくなり、自分の考えを整理するために読書することが多くなった。誰かに相談できない訳ではなく、本に解答を求めているのでもない。たぶん、会話をして解決するには限界が出てきたのだろう。

悩みの多くは、仕事やプライベートで前に進もうとする時に起こる。本には多様な思想や多くの未知なる情報がある。その時、本から学び対話をすることで、自分の奥底にある思いや迷いと話をすることができ、思考の整理がつく。本は場所を選ばず、どこでも手軽に自分と向き合う時間を作ることができる道具である。結局、本を読むことは自分と向き合うことになっている。だから一言でいうと、私にとって本は“羅針盤”、道を決めるのは“自分”、そんなところでしょうか。これからも本を身近なものにし、悩み少なき豊かな人生にしたい。

これからも、よろしく。

保健看護学部 助教 平井祐子

本誌「図書館報みかづら」のバックナンバーに、「図書館は皆さんにとってどのような場所ですか？」という問いかけが幾つかあった。そこで、私にとっての三葛館はどのようなものか考えてみることにした。

私は、本学看護短期大学の卒業生である。当時を振り返ってみると「国家試験の受験勉強をおこなった場所」という印象が強く残っている。友人とともに平日朝から夕方まで(当時は閉館時間が早かった)、猛勉強したのを覚えている。解けない問題があればその場で文献を検索し…。その甲斐あり、何とか看護師国家試験に合格し、附属病院に就職することができた。附属病院には、紀三井寺館が併設されているが、医学系資料がメインである。そのため、卒業後も、看護系の資料が充実している三葛館で検索をおこなうことが多かった。

平成21年春、教員として保健看護学部に戻ってきた。看護師時代と生活リズムががらりと変わり、体重が急増。食生活を再考するため、三葛館所蔵の栄養関連の書籍を読み漁り、何とか看護師時代の体重に近づけることができた。

三葛館とのお付き合いは10年以上になる。学生時代との大きな違いは、開館時間が延長し土曜日にも利用できることである。さらに、ホームページ上でも蔵書検索や図書情報などの閲覧ができ、とても便利になっている。こんな手段も活用しながら、これからも三葛館と付き合っていきたい。これからも、よろしく。

三葛館への思い

保健看護学部 助教 山口 昌子

三葛館は、こじんまりしているけれども専門書の取り揃えが充実していて、また、外書文献も豊富でとてもよい図書館だというのが訪れた時の第一印象です。

図書と和歌山にちなんで思うことの一つに、和歌山出身の作家、有吉佐和子が浮かびます。郷土の川を表題にした小説「紀ノ川」「有田川」「日高川」などは、女性の生き方を川の流れと重ねることでその物語は展開していきます。なかでも「有田川」の主人公千代は、幾度かの川の氾濫にも負けずに蜜柑作りに生涯をかける女性の物語です。ひとつのことに熱中し、情熱を燃やす千代の姿は、読んでいて清々しい気持ちにしてくれます。有吉佐和子の描く主人公は、皆、しなやかで、逞しく、どんな苦労や困難にも負けないといった女性たちです。高齢化社会について書かれた「恍惚の人」は、現代においても「老い」について多くを考えさせられます。

看護は、人の「生病老死」に深く関わる職業です。それゆえ私たち看護職者は、広く深く人間理解の能力が求められます。今までの自分の経験だけでは、想像もつかないような状況にある人にも理解を示していかなければなりません。そのような時、多くは文学作品の主人公から学ぶことができます。図書に触れることは自分の幅を広げることにもなると思います。

知識は人をタスケル

医学研究科修士課程 1年 池田 秀幸

本稿のタイトルは、図書館三葛館ホームページのトップに掲げられている言葉である。

見たことのない人は一度見てみてほしい。ホームページ右上の目立つ所に、この言葉は存在している。いや、司書の方の策略であえて目立つように配置されている。

初めて三葛館を訪れた際、参考書から読み物、闘病記まで守備範囲が広いという印象を受けた。そんな様々な書物のある三葛館に通うようになり、司書の方々と親しくさせてもらううちに、タイトルの「知識は人をタスケル」という言葉に隠された司書の方々の思いがほんの少し感じとれるようになった気がした。

確かに万人における真理であると思う。「知識」は「知恵」を生み出す。それが生きていく上で個人を助けるのである。そしてここは医科大学であるので、看護、医学の知識が人を助けるということは言うまでもないが、三葛館では先に挙げた参考書以外の書物が多いことから、看護や医学の知識だけでなく、感性豊かな医療人になってほしいという司書の方々の思いが込められているのではないだろうかと感じた。

そんな素晴らしい司書さんがいて、その司書さんが選んだ書物のある三葛館を利用しない手はあるか。否、ない。

絵はがき展示、終了しました

1年にわたり、グループ学習室の壁面に絵はがきを展示してきましたが、みなさんご覧いただけましたでしょうか？

筋ジストロフィー患者さんが、身障者用マウスを用いて創作した絵はがき作品の数々でした。ベッドの上で、四季のうつりかわりに思いを馳せて、じっくりと時間をかけて大切に作られたものです。鮮やかな色彩と写実的な表現、ストーリー性のある演出が施された、心に響く作品でした。図書館を利用するみなさんの勉強の合間のひとときに、季節感と癒しを提供できればと思い、作者より頂戴して、季節ごとに展示をさせていただきました。「作者へのメッセージ」をお寄せいただきましたみなさん、ありがとうございました。ひとりでも多くの方が展示作品に何かを感じていただけたなら幸いに思います。

この展示は、2010年1月をもってひとまず終了いたしました。閲覧室のどこかでまたみなさんの目に触れる機会があるかもしれません。

展示図書はじめました！

毎月テーマを決めて図書館員がおすすめる本をピックアップして展示しています。

その時々話題になっていることや、みなさんに興味をもってもらえそうなテーマを考えています。普段図書館をよく利用している方でも、数ある本の中で、なかなか目に留まらない本がたくさんあります。そんな埋もれている本たちをすこしでも多く紹介していきたいと思います。「あ、こんな本もあったんだ」、「おもしろそう、読んでみよう」と手にとっていただければうれしく思います。もちろん貸出もできますので、三葛館に来られたときには、入館ゲート入ってすぐ右手の本棚にぜひ目を留めてくださいね。

過去の展示テーマ

- 第1回「日野原重明先生の著書」
- 第2回「あなたの知らない和歌山を探そう」
- 第3回「リフレクソロジー」
- 第4回「薬物について考えてみよう」
- 第5回「新型インフルエンザ」
- 第6回「食と健康」
- 第7回「いのち」
- 第8回「さあ、旅にでよう」



過去に展示していた図書のリストは、三葛館のブックログ(Web上の仮想本棚)で確認することができます。

ブックログ：三葛館の本棚 <http://booklog.jp/users/libmik>

図書館の新しいサービス紹介

本学で閲覧できる電子ジャーナルのリストと、文献データベースの検索結果から本学で閲覧できる電子ジャーナルや冊子体所蔵情報、その他の外部リソースへのナビゲーションを行うシステムを導入しました！

和歌山県立医科大学電子ジャーナル

<http://sfx2.usaco.co.jp/wmu/az>

雑誌名からあるいは分野を限定して電子ジャーナルを検索したり、雑誌名と巻号ページなどから特定の論文を検索したりできます。



文献データベースの検索結果から電子ジャーナルへのナビゲーション

対象データベース： 医中誌 Web、CiNii、EBSCO (CINAHL / MEDLINE / PsycINFO)、PubMed、SCIRUS、Google Scholar、OVID (MEDLINE / EBMR)

各データベース検索結果の文献情報に個別に表示される

フルテキスト入手
和歌山県立医大

をクリックすると、下記画面が開きます。

フルテキストがあればリンクをクリックして文献を入手することができます。使い方がわからない時は図書館カウンターでお尋ねください。

平成20年度（2008年度）三葛館活動記録

- 4月2日 第1回保健看護学部図書委員会
- 4月4日 附属病院新規採用看護職員研修 図書館オリエンテーション
- 4月8日 保健看護学研究科 新入生オリエンテーション
- 4月10日 保健看護学部 新入生オリエンテーション
- 4月14日 助産学専攻科「助産研究」文献検索講義
- 4月19日 日本看護図書館協会第18回総会・著作権フォーラム（日本赤十字看護大学：東京）
- 5月12日 保健看護学研究科「保健看護情報統計学」文献検索講義
- 6月11日 第2回保健看護学部図書委員会
- 6月30日 保健看護学部3年生「保健看護研究Ⅰ」 文献検索講義
- 7月3日 株式会社リコー図書館システム LIMEDIO セミナー（スイスホテル南海大阪）
- 7月7日 保健看護学部3年生「保健看護研究Ⅰ」 文献検索講義
- 7月9日 附属病院看護師職員研修 文献検索講義
- 7月16日 EBSCOhost2.0 大阪セミナー（阪急グランドビル：大阪）
- 8月7～8日 日本看護図書館協会第38回研究会（聖マリア学院大学：福岡）
- 8月25～29日 蔵書点検
 - 9月5日 ExLibris セミナー（梅田スカイビル：大阪）
 - 9月17日 公私立大学図書館コンソーシアム(PULC)電子ジャーナル版元説明会（大阪市立大学）
 - 10月1日 第3回保健看護学部図書委員会
 - 10月2日 保健看護学研究科「英語文献購読」 海外文献検索講義
 - 11月14日 保健看護学部「保健看護英語」 海外文献検索講義
 - 11月26日 第4回保健看護学部図書委員会
- 11月27～28日 第10回図書館総合展（パシフィコ横浜）
- 2月20日 SIST セミナー2009（京都市サーチパーク）

平成20年度 利用統計

年間開館日	282日
入館者数	39,358人
(1日平均)	140人
貸出人数	7,835人
図書貸出冊数	19,827冊
視聴覚資料貸出件数	204点
相互利用依頼件数	322件
相互利用受付件数	1,503件
学外利用者数	949人

三葛館の蔵書2008

蔵書冊数	43,400冊
うち洋書	7,141冊
所蔵雑誌種数	668種
うち外国語	138種
年間受入図書冊数	2,789冊
うち洋書	461冊
年間受入雑誌種数	354種
うち外国語	109種
(2009/3/31 現在)	

編集後記

「図書館報みかづら」は本号より自前印刷に切り替えました。コスト削減を図れること、コピー機兼プリンタの性能が向上したこと、編集作業や原稿の締め切りのスケジュールに自由度を持たせられることなど、メリットを勘案して行ったものです。原稿を執筆くださいました皆様のおかげで読みごたえのある誌面に仕上がったのではないかと考えております。三葛館への問題提起や期待、そして評価をいただきましてありがとうございます。もっと愛される三葛館になれるよう努めたいと思いますので、今後ともどうぞよろしく願いいたします。(J.S.)



平成22年3月31日発行
 図書館報 みかづら(第13号)
 発行 和歌山県立医科大学図書館三葛館
 〒641-0011 和歌山市三葛580番地
 TEL (073) 447-2300(代表)
 (073) 446-6721(三葛館)
 FAX (073) 446-6730(三葛館)

